

令和元年度第3回図書館協議会

日時 令和2年2月6日(木) 10時から 図書館多目的室

出席 委員 浅田委員、大隅委員、佐伯委員、清水委員、  
不破委員、谷口委員、平元委員、  
今関委員、岸本委員、福井委員

事務局 田代教育長、旭教育部長、細谷教育部次長、  
美濃部課長、松田主事、松本館長  
西村副館長、佐藤参事、天谷主査

会議録

1 開会

2 あいさつ

【教育長】本日はご多忙の中、出席いただきありがとうございます。今年度最後となり、2年の任期においても一つの区切りとなる。新図書館の運営について試行錯誤の2年間ではあったが、皆様のお力添えで、心強く仕事をさせていただきました。「としよかん誕生祭」の様々な行事にもご参加、ご協力いただき、多くの市民の皆様から参加してよかった、楽しかった等の感想をいただいた。

【会長】このメンバーで議論できるのは今回が最後となる。新しい図書館について議論してこられたことは、非常に良かった。図書館は、市民の方が育ててくださるもの。皆さまにおかれては、今期委員をつとめていただいたことを機に、今後も図書館を見守っていただきたい。

アメリカ図書館協会では「アドボカシー」という取り組みがされている。市民の方が図書館を支援することを図書館が応援する。そのことが結果として市民の暮らしを豊かにしていく。守山の図書館をよりよくしていくために支えていただければと思う。

【会長】 前協議会以降の主な活動について事務局より報告をお願いする。

【事務局】資料に沿って説明

【会長】 守山市図書館協議会規則の改正について事務局より説明をお願いする。

【事務局】資料に沿って説明

【会長】委員の任期にあわせて会長の任期を設定するものか。

【事務局】そうです。

【会長】子ども読書活動推進計画について社会教育課より説明をお願いします。

【社会教育課】資料に沿って説明

【委員】残念ながらパブリックコメントが0件だったと聞いている。

【社会教育課】様々な手段をとっているがなかなか周知されない。一層努力していきたい。しかしながら、策定委員や校園の関係者から貴重なご意見をいただいている。

【委員】現状では学校司書の勤務は週に1回4時間程度。学校図書館が常に開館できる状態を望む。今計画は最初の一步だと思う。学校図書館が人の面で充実していくことを期待する。

【委員】司書の設置率が100%であっても、勤務時間の実態としては仰るとおり。これが増えていくようになればと思う。

市立図書館の子どもへの貸出冊数の目標値について、初期効果を見込んで、数値としては現状を維持していくと言われた。指定管理者制度の図書館の場合、初期効果は1年程度でありその後は貸出冊数が落ち込むという問題がある。直営の図書館はそうではなく、貸出冊数が下がるということはほとんどない。指定管理者による運営との大きな違いだと思う。

守山の図書館は、目標を高いところに置いてほしい。来館者がリピーターになり、新しい人たちを誘う。図書館にはその魅力がある。目標を大きく超える実績を目指してほしい。

【委員】計画の実績を見ると、ほとんどの子どもが本を読んでいることになっている。しかし、若者の活字離れと言われ、大人になると読まない人が増えている。実態としてはどうなのか。この数字をどう評価しているのか。

【社会教育課】成長期に本を読む習慣をつけることが大切。中学校の取り組みとしては、朝の読書活動などを実施している。デジタル社会におけるスマホの影響をしっかりと検証する必要がある。国の施策として、スマホから活字の本に結び付ける取り組みも検討されている。

【委員】現代の子どもは、絵本よりも映像を魅力に感じている。おはなしは楽しいと身近な人の声で伝えていくことが必要。

お母さん方も子どもにスマホを与え、スマホで育児をしている場面も見受けられる。子どもはスマホで上手に遊んでいる。本を読む子と読まない子が両極端にわかれてい

る。図書館に滞在して本を読んでいる人もたくさんいる。他方、家で新聞も読まない人もいる。計画では、読書時間の確保、大人との関わりについて具体的に提示している。

【委員】授業の一環で本を読まされるだけでなく、日常の読書が重要。個人個人が図書館で本を借りてもらわないと数値が増えていかないと思う。

【委員】小学校では週に一回、朝読書がある。学年によっては読み聞かせをしている。小学生はまだ時間に余裕があるが、中学生になると部活や塾などでたいへん忙しく、なかなか読書する時間がない。中学生は朝読書の時間に勉強をしまいがちだが、先生がちゃんと読書しているかチェックしている。強制的ではあるが、本を開いて見る機会が持っている。図書館に来る時間がなく、自分で購入して学校で読んでいる子どももいる。

【委員】中学校では、平成 29 年度から毎朝 10 分間、読書の時間を設けている。おだやかな時間がとれ、子どもたちも落ち着くことができる。また、教師も読むようになった。中学生が図書館に来館するきっかけの一つになっているのではないか。

教職員が学校司書を活用しきれていない現状がある。学校が学校司書を活用する実績をつくっていけば司書の勤務時間も増やせるのではないか。守山市はよいスタートを切れたと思う。

【委員】学校図書館は、授業に活かしてこそ初めて存在価値を持つ。学校司書の配置をそのきっかけしてほしい。

【委員】高校の学校図書館には司書がおり、生徒がよく出入りしている。興味がある生徒は本に手が伸びる。小さいときの読書習慣が大切。親の姿勢や興味関心も影響する。図書館の中高生サポーターの取り組みはすばらしい。中高生が図書館の本にどう興味を示すか、きっかけづくりが必要である。

【委員】今村翔吾さんの講演会に参加した。今村さんの追っかけの方がたくさん参加していた。年齢層もさまざまだった。その人たちの話を聞いていると、作家や作品について深い話をされている。図書館に来ると平日でもたくさん本を読んでいる人がいる。自分自身、働いている時は仕事に関係する本しか読む余裕がなかった。リタイアして読みたかったものが読めるようになった。長い人生の中でまた本に親しむ機会があればよいと思う。

【委員】小さい頃からの読書習慣が大切。大学生がレポート書いても、習慣がある人となない人とは、調べ方が全然ちがう。読書習慣がない人は、インターネットのコピーだけで自分の意見を書くことができない。幼児期、小中学校期が大切。

#### 4 協議事項

【会長】(1) 令和2年度運営方針および活動計画(案)について説明をお願いする。

【事務局】資料に沿って説明

【委員】としょかん誕生祭に参加して、非常によい取り組みだった。来年の計画案にはないが、年に1回、図書館まつりを開催するのはどうか。

【事務局】誕生祭は初めての試みであり、手探りで企画した。利用者とのコミュニケーションがとれる良い機会となった。来年度も形を変えて実施したい。

【委員】誕生祭では、ビブリオトーク、古本市に参加した。古本市は始まる前からたくさんの方が並ばれていて、盛況だった。ビブリオトークでは、翌週が今村先生の講演会だったので、著作を紹介した。一人でも何冊も紹介する方もあった。参加者が少なかったのだと思うが、一人一冊でよかったのでは。来年もぜひ続けていただきたい。

【事務局】ビブリオトークについては、ルシオールアースアートフェスティバルのイベントとして開催する予定です。

【委員】ビブリオトークは授業で行っている中学校・高校もある。

【委員】市民の方もまじえて図書館を活性化させる催しについて検討していただきたい。

【委員】打合せや調整など、実施には大変なエネルギーがいる。一周年記念ということだったが、今後おなじ形で実施するのはむずかしいのではないか。良い部分を引き継いで、やってほしい。

職員は日々の業務がたいへんだと思う。職員がリードしつつサポート隊メインでやってはどうか。サポート隊が動けるよううまく仕組んでいく工夫を。

【委員】職員の資質向上について意見を申し上げる。著名な作家の講演会については、担当職員しか参加することができない。作家等の講師は図書館利用の達人であると思う。市民向けの講演会の後に職員向けに「わたしの図書館活用術」について話してもらえば、良い研修になるのではないか。

【委員】「アドボカシー」がこれからの守山の図書館の指針になればよい。新図書館で「図書館友の会」が発足すれば図書館について自由に話し合えると思っていた。実際にはサポート隊という名前が変わり、図書館をサポートするという方向に変わったことは残念に思う。図書館をサポートするのではなく市民として図書館をどう育てるのか、市民サイドとして考えることが重要だ。としょかん誕生祭はサポート隊グループ

の一人として参加した。企画の段階で市民にひろくよびかけ、市民が企画すればよいと思った。サポート隊の登録団体に限らず市民はいろいろなことに興味を持っている。そうした活動を取り込んで広げて行ってほしい。

県外の友人からも守山の図書館について良い評判を聞く。非常にうれしく思う。これまで市民として粘り強く図書館を育ててきた。これから市民と協業していく図書館になってほしい。

学校司書に先生と仲良くなる時間はあるのか。先生が司書を活用するためには、互いが親しくなることが必要。守山の学校図書館がこれから全国で評判になってほしい。学校司書が学校の一員になり存在感を持てるよう、教育委員会は応援してほしい。

子どもの読書については、絵本はコミュニケーションのツールの一つとして考えてほしい。遊び道具のひとつとして絵本があればよいと思う。

読書通帳を持っているが単に印刷するだけでつまらないと感じる。銀行などの貯金通帳は印字するとドキドキする。図書館に言っても仕方がないが、メーカーに工夫してもらいたい。

【委員】読書通帳をどう活用するかはむずかしい。ホームページを利用して自分で読書記録をつくる仕組みが今後出てくるかもしれない。

【会長】最後の会となるので、各委員から一言ずつお願いします。

【委員】学校の役割が明確になってきた。司書と教員をつなげることができていない現状がある。スクールカウンセラーも導入当初はそうだったが、現在は欠かせない一員となっている。司書と教員が話し合う時間があればよい。

本に親しめるよう全小中学校で読書タイムを設けてほしい。本が近くにあると手に取りやすいので環境づくりも重要。

かつて非行と子育ての関連性について調査が行われたことがある。読み聞かせの経験がある子は非行にならないという結果が出た。守山市はスマホで子育てしません、本で子育てしますと言い切る。

【委員】2年間、新しい図書館を作るための素晴らしい時間だった。多くの有識者と意見を交わし非常に勉強になった。

幼稚園や小学校で読みきかせのボランティアをしている。ボランティア同士で交流の機会がないので設けてほしい。

【委員】図書館のことをいろいろ考え、意見を聞きたいへん勉強になる良い機会だった。サポート隊について質問だが、どのような実態なのか教えてほしい。

【事務局】現在登録者は、個人93人、うち中高生27人。団体は29グループ。部屋を使って自主的に企画し、無料で市民に公開講座を実施してもらおう。図書館だけではなく、市民が持てる能力を発表する場としている。

【委員】日常的に図書館にかかわっている人もいる。意見を聞く機会はあるのか。

【事務局】市民の方の日常的なご意見の窓口として、カウンターやアンケートボックスなどがあるが、コミュニケーションの場を持つことも大事だと認識している。今後、検討したい。

【委員】学校司書が教員とコミュニケーションをとることは、学校図書館活用のために大切である。各学校の司書教諭が連携をはかってくれているが、学校によって授業などで忙しいとそれがうまくいかない。司書教諭の先生と話ができる学校とできない学校がある。

市立図書館の学校図書館へのサポートについて、ちらしを作り、全校の教員に配布してもらった。業務や支援できる内容を理解してもらえた。学校図書館・司書による授業の支援が進んでいると思う。

【委員】司書教諭は全校配置となっている。有効に機能するようにしてほしい。

【委員】仮設図書館の頃から4年間、活気のある時期に参加させてもらった。ボランティアの交流については同意見。活動計画案にもあがっている。職員はいそがしいと思うので市民の方からはたらきかけたい。市民から動くこと大切。味方を得て協力してうごきたい。

【委員】ながく図書館に関わってきた。新しい図書館ができたことはとてもうれしい。幸せな2年間だった。市民と協働していく図書館という目標があるが、「市民と協働」を具体化していく必要がある。サポート隊に関しては、こんなにサポートしたい人がいるのかと思う程人が集まっている。

学校図書館については、20数年前に司書教諭が設置されたが、司書教諭の授業数が減らされていない。授業数が減らないと司書教諭として動けない。学校の環境は近年どんどん変わっている、教員はたいへん。声を大にして意見を言わないと学校図書館が忘れられてしまう。

【委員】長い間寄せていただいている。図書館とつながっていることがうれしい。近々、教師塾がある。教師になろうという人に、絵本の読みきかせやスピーチの研修を行う。絵本を読んでほしいという依頼が増えているが、自動車の宣伝イベントなど、環境的にむずかしい場合もあり、お断りすることもある。いかに子どもに読書をさせるか、環境が大切。また、幼稚園では読み聞かせの研修があまりされておらず、新たに研修会を行ったところだ。

【委員】里帰りした息子に「まだ新聞をとっているの？」と言われた。最近では、携帯で新聞もテレビも見ることができる。子どもも孫たちも新聞を読んでいないという。時代の変化に驚いた。

【委員】先月、講演会をされた作家の国松俊英さんと出会った。図書館の印象を尋ねると「よい図書館だ」と言ってくれた。いろいろ噂はされるが、実践が先にある。良

い実践を続けていただきたい。

また、学習席が気になっていたが、最近は落ち着いてきていると感じる。開館前に職員が、学習席のために並んでいる人と本を借りに来た人をうまく誘導してくれている。

館内ではスマホで遊んでいる子どもも目につかなくなり、安心している。このまま落ち着いてほしい。図書館は、学生に対して単に席を貸すのではなく、学校案内を置くなど資料のサービスにも工夫してくれている。図書館がなにをすべきか明確になってきた。

孫を連れてきたときに、自分で検索して大人の本のコーナーへ行ってしまったが、偶然にも自分のほしい本に行き着いた。検索するだけではなく、本がたくさん並んでいる場所にこそ思いがけない出会いがある。子どもも大人も図書館の面白さをわかってほしい。

新図書館貸出 100 万冊突破として「広報もりやま」の表紙になった。市としても図書館を自慢に思っているのではないか。

【委員】他自治体でも協議会の委員をしていたが、守山の委員はそれぞれ実践をされていて、レベルの高い協議会だと感じる。

【委員】皆さんとお話しできて楽しかった。協議会に限らず、様々な機会に図書館に来て議論してもらえたら、すばらしい図書館に育っていくと思う。

【会長】 次回もぜひご出席をお願いします。それでは進行を事務局に戻します。

【事務局】 本日はありがとうございました。

閉会。